

1. 2004年度 心のクリニック活動報告

I. はじめに

心のクリニックは、追手門学院大学地域支援心理研究センターの附属施設として、2004年4月より活動を開始した。2004年4月から10月までの7ヶ月間について活動を報告する。

II. スタッフ構成

相談担当教員 (専任)	非常勤相談員	院生相談員		事務職員	計
		M1	M2		
7	2	10	9	1	29

III. 施設について

本年度の相談活動は下記見取り図のとおり、大学2号館内でおこなった。下記の図面に加えて、1Fに院生相談員用の2部屋（42.66㎡）がある。

追手門学院大学地域支援心理研究センター「心のクリニック」
(追手門学院大学2号館)

3階	プレイルーム 64.78 ㎡	面接室 32.29 ㎡	事務室 (受付) 32.29 ㎡						
	待合室 12.66 ㎡	観察室 22.12 ㎡	プレイルーム 64.78 ㎡						
2階	面接室1 13.74 ㎡	面接室2 13.74 ㎡							

4. 受理面接後の経過状況は右の表2のとおりである。

表2 受理面接後の経過状況

最終	継続	中断	経過観察	リファー	合計
9	33	4	0	0	46

5. 来談者年齢層

来談者の年齢層については、表3、図2と図3のとおりである。今年度はにここ教室のプレイセラピーで来談する親子が中心になっているので、2～6才代の未就学児とその母親の年齢層が多くなっている。

表3 来談者年齢層

年齢層	2～6才代	7～12才代	20代	30代	40代	50代	合計
人数	18	3	4	15	5	1	46
割合	39%	7%	9%	33%	11%	2%	100%

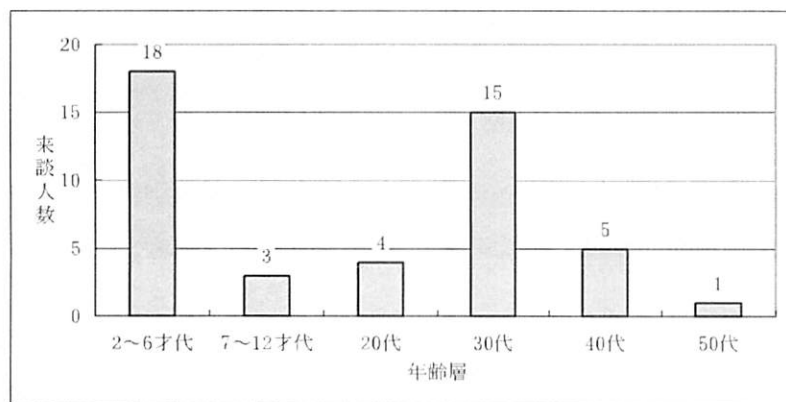


図2 来談者年齢層

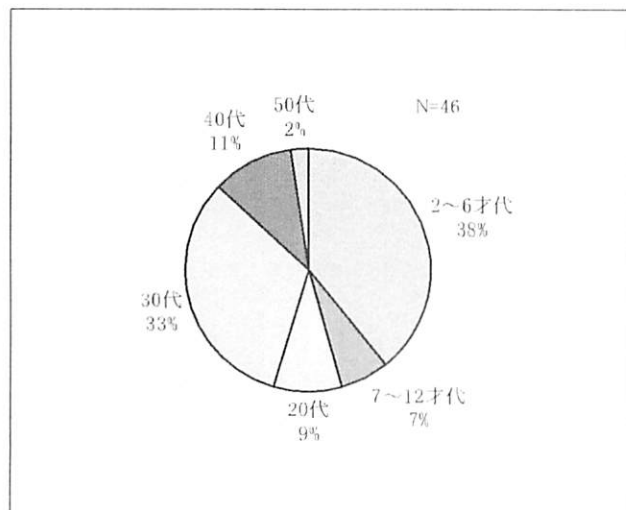


図3 来談者年齢層の分布

6. その他

電話による受理相談（来室に至らなかった件）

2004年5月17日から10月31日現在の件数は下記の通り、7件である。

NO.	主 訴
1	子どもの不登校について
2	自閉傾向の子どもについての不安
3	子どもの自閉傾向、言葉の遅れに対する不安
4	重度発達障害の子を持つ親の不安
5	子どもの不登校に悩んでいる
6	トラウマ体験をした子どもの精神的不安について
7	心理的問題と不就労についての悩み

臨床心理実習 学外施設活動状況

摘要：施設名・臨床心理士（指導者）所在地
実習期間、実習時間数
実習内容

摂津市家庭児童相談室：臨床心理士 白山真知子
(所在地：摂津市千里丘東1-16-2、摂津市烏飼2-1-4)
2004年4月～3月、毎週木曜日あるいは水曜日9：30～18：30（約432時間）
母子同室の集団遊戯療法、その後ケース・カンファレンス、
母子分離クラスにおける自閉傾向のある児との集団遊戯療法、その後ケース・カンファ
レンス

豊中市子ども未来部子育て支援課「ほっぺ」：臨床心理士 小川万希子
(所在地：豊中市桜塚3-1-1)
2004年4月～現在、毎週火曜日9：30～18：30（約432時間）
子育て支援課における遊戯療法、母グループ、発達検査およびスーパービジョン

北斗会さわ病院（総合病院精神科）：臨床心理士 増子高通
(所在地：豊中市城山町1-9-1)
2004年4月～現在、毎週火曜日8：30～17：30（約432時間）
予診の陪席とフォロー、予診の実施、これらのスーパービジョン、査定（バウム・テ
スト、MPI、HPT、SCT）の解釈とケース研究、痴呆老人のケース検討、回想法
の研究、デイケアでのグループ指導

復光会垂水病院（精神病院）：臨床心理士 利根川雅弘
(所在地：神戸市西区押部谷西盛566)
2004年4月～3月毎週火曜日8：45～16：45（約384時間）
アルコール依存の患者についての研修とグループに参加、うつ病患者についての研修と
面接、統合失調症の患者との関わり方の研修と面接など。

大阪府衛生会希望の杜（情緒障害児短期収容施設）：臨床心理士 永井 享
(所在地：高槻市大字奈佐原955)
2004年4月～3月、毎週火曜日9：00～18：30（約432時間）
被虐待児のための環境整備、および集団遊戯療法、その後のケース・カンファレンスと
スーパービジョン、自律訓練法の研修

安本学園臨床心理研究所：臨床心理士 安本 淳

(所在地：京都市伏見区深草鞍ヶ谷1)

2004年4月～3月、毎週火曜日9：00～16：00（約336時間）

心理査定（Y-G、CMI、MMPI）の実施とそれをもとに教育分析を受ける、不登校の小中学生の描画法（人物、樹木、いえ、HTP）の解釈の仕方、およびケースについての研修、催眠療法および臨床動作法の体験、ケース・カンファレンスへの参加、不登校児のケース研究

桃花塾（知的障害者施設、知的障害者更生施設）：臨床心理士 宮本孝子

(所在地：富田林市大字喜志206)

2005年2月10：00～15：00（予定）（約5時間）

知的障害者およびその更生施設についての現況の理解、その後13～17歳の入所者を対象に新版K式発達検査を実施する、終了後スーパービジョンをうける、評価の報告書の作成、レポート提出

臨床心理基礎実習 学外実習

1. 摂津市家庭児童相談室学外実習

1) 事前研修

摂津市家庭児童相談室学外実習の事前研修を、6月27日(月)午前11時10分より12時40分にかけて、2103教室において行った。担当教員辻潔・永野浩二。修士一年生全員参加。内容は家庭児童相談室の対象者や活動内容の解説、実習のポイントの説明、実習参加者の心得、集合場所・時間の確認等であった。

2) 全体実習

摂津市家庭児童相談室全体実習を7月5日(月)午前10時より午後13時にかけて行った。担当教員永野浩二、修士一年生全員参加。摂津市家庭児童相談室臨床心理士白山真知子室長より、プレイルーム、親面接室、集団療法室、心理検査室の施設を順に回りながら、児童心理臨床の施設および、そこでの臨床実践に関する解説を受け、夏期の摂津市家庭児童相談室個別実習と後期の集団プレイセラピーへの準備の学習を行った。また、夏期個別実習の実施計画に関する確認を行った。

3) 個別実習

摂津家庭児童相談室個別実習を下記の日程で実施した。

実習日時と参加者院生：

8月23・30日(月)(10:00～17:15)

8月24・31日(火)(10:00～17:15)

8月25日・9月1日(水)(10:00～17:15)

8月26日・9月2日(木)(10:00～17:15)

8月27日・9月3日(金)(10:00～17:15)

実習内容は、集団プレイセラピーへの参加とプレイセラピーの観察、また事後にケース担当者のカンファレンスに参加し解説を受けた。各院生に対し実習レポートの提出を課題とした。

4) 個別実習事後研修

摂津家庭児童相談室個別実習事後研修を9月27日(月)11:10から12:40にかけて2103教室において行った。担当教員辻潔・永野浩二、修士一年生全員参加。内容は、各院生に実習レポートに基づいて報告を求め、担当教員からプレイセラピー、集団プレイセラピー、親面接等児童臨床の実際について解説を加えた。

2. 希望の杜施設実習

1) 事前研修(施設内)

情緒障害児短期治療施設・希望の杜宿泊実習に先立って、7月5日(月)午後16時より約一時間、施設内事前研修を行った。担当教員とともに修士一年全員が参加した。施設の臨床心理士永井享非常勤講師より、入所児童について、また実習中の注意点などについて解説を

受けた。担当教員：永野浩二・井上知子。

2) 施設実習事前研修 (学内)

希望の杜宿泊実習の学内事前研修を7月12日(月)13:30より約一時間半にわたって行った。修士一年全員が参加。実習内容は入所児の理解、児童への接し方の注意点、実習参加者の役割の確認等であった。担当教員：辻潔・永野浩二・井上知子。

3) 施設実習

情緒障害児短期治療施設・希望の杜宿泊実習を、大学院修士一年10名を7月13日(火)から7月17日(土)[4名参加]、7月20日(火)から7月24日(土)[6名参加]の2班に分け、それぞれ4泊5日の日程で行った。各院生は生活指導員として入所児童と関わり、入所児童が就寝してから、永井亨非常勤講師を中心に施設の常勤指導員との間で振り返りのミーティングを受けた。施設は交通の不便なところにあるため担当教員が車で送り迎えを行い、また実習の中日に施設を訪問し実習生の実習状況を確認した。担当教員：辻潔・永野浩二・井上知子。実習終了後、実習日誌の提出を課題とした。

4) 事後研修

希望の杜宿泊実習の学内事後研修を9月27日(月)3:30より、修士一年10名を3班に分け、教員3名との間で順に個別の形式で行った。内容は実習日誌の記録に基づき、実習の中での各実習生の体験を聞き、児童への対応の困難さやその心理的意味づけなどをスーパービジョン形式で行った。担当教員：辻潔・永野浩二・井上知子。この事後研修での教員との振り返りをもとに実習レポートを課題として課した。

3. 當麻病院施設実習

担当教員、修士一年全員で當麻病院(精神科)を訪問し、精神科医ならびに臨床心理士より精神科での医療業務および臨床心理業務について解説を受ける。また病棟の回診への参加、本学非常勤講師菊池正名誉院長によるポリクリの陪席をし、さらに入院患者の作業療法に参加する形で例年進めており、今年度も同じ内容で行う予定である。事前研修・事後研修を実施し、精神障害について、精神科での心理臨床についての理解の深まりを狙っている。担当教員、小花和昭介・辻潔・永野浩二、日程：2005年1月予定

4. 桃花塾施設実習

担当教員、修士一年全員で桃花塾(知的障害児施設・知的障害者更正施設)を訪問し、施設長ならびに心理研究部長であり本学非常勤講師でもある宮本孝子氏より、知的障害児(者)施設での臨床心理業務の解説とデイ・ルーム、施設内農場等の案内を受ける。さらに院生は入所者の集団活動(陶芸・和紙作り・絵画・卓球等)に分かれて参加し、最後に知的障害者のグループホームを訪問し解説を受けるという形で例年実施している。今年度も同じ形式で実施する予定である。事前研修・事後研修を実施し、知的障害、および障害者福祉領域での臨床心理業務についての理解の深化を図る予定である。担当教員、辻潔・永野浩二、日程：2005年2月予定。

2. 臨床心理学コース2004年度カリキュラム

履修区分	科目名	単位	担当者	配当年次	備考	
必修	臨床心理学コース演習 I	2	小花和昭介 井上知子 倉戸由紀子 三川俊樹 辻深二 永野浩二	1年次	臨床心理学コース専攻生のみ	
	臨床心理学コース演習 II A 同 B 同 C 同 D 同 E	2	井上知子 小花和昭介 倉戸由紀子 三川俊樹 樋口勝也	2年次	臨床心理学コース専攻生で、臨床心理学コース演習 I を修得した者のみ	
選択	臨床心理学特論	4	倉戸由紀子	1年次以上	臨床心理学コース専攻生のみ	
	臨床心理面接特論	4	樋口勝也 三川俊樹 永野浩二 田中徳子	同	臨床心理学コース専攻生のみ	
	人格心理学特論	2	井上知子	同	後期	
	犯罪心理学特論	2	松野凱典	同	後期	
	臨床心理関連行政論	2	田中耕二郎	同	後期	
	精神医学特論	2	池澤浩二	同	後期	
	障害者(児)心理学特論	2	近藤文里	同	前期集中	
	投映法特論	2	佐方哲彦	同	前期 心理学専攻生のみ	
	心理療法特論(一)	2	佐方哲彦	同	後期 心理学専攻生のみ	
	心理療法特論(二)	2	佐野直哉	同	前期集中 心理学専攻生のみ	
択	学校臨床心理学特論(一)	2	倉戸由紀子	同	後期 臨床心理士資格対応	
	学校臨床心理学特論(二)	2	三川俊樹	同	後期 学校心理学資格対応	
	以上の講義科目から、5科目以上12単位以上を修得すること。					
	臨床心理査定演習	4	小花和昭介 井上知子 辻深二 永野浩二 菊池正子 宮本孝子	1年次以上	2時限連続開講 臨床心理学コース専攻生のみ	
	臨床心理基礎実習	2	倉戸由紀子 樋口勝也 阿津川令子 永井利根川 安本増子 宮本孝子	1年次	2時限連続開講 臨床心理学コース専攻生のみ	
必修	臨床心理実習(一)	2	倉戸由紀子 樋口勝也 阿津川令子 永井利根川 安本増子 宮本孝子	2年次	2時限連続開講 臨床心理学コース専攻生で、臨床心理基礎実習を修得した者のみ	
	臨床心理実習(二)	2	倉戸ヨシヤ	2年次	2時限連続開講 臨床心理学コース専攻生で、臨床心理基礎実習を修得した	
	以上の演習・実習科目から、1科目以上2単位以上を修得すること。					
	認知心理学特論	2	石王敦子	1年次以上	後期	
生理心理学特論	2	投石保広	同	後期		
大脳生理学特論	2	投石保広	同	前期		
教育心理学特論	2	三川俊樹	同	前期		
発達心理学特論	2	河合優年	同	後期		
社会心理学特論	2	広沢俊宗	同	前期		
心理学研究法特論(一)	2	落合正行	同	前期		
心理学研究法特論(二)	2	加藤徹	同	後期		
心理統計法特論	2	東正剛	同	前期		
認知心理学演習	2	石王敦子	同			
教育心理学演習	2	田中俊也	同			
発達心理学演習	2	河合優年	同			
社会心理学演習	2	藤本忠明	同	交通心理学を含む		
上記の必修科目、選択必修科目および選択科目を含めて、講義24単位以上、演習・実習6単位以上、合計30単位以上を修得すること。						

3. 心のクリニック規定

[2004年4月1日制定]

(設置)

第1条 追手門学院大学地域支援研究センター規定第4条に基づき、同センター（以下「センター」という。）内に心のクリニックを置く。

2 心のクリニックの組織並びに運営は、この規定の定めるところによる。

(目的)

第2条 心のクリニックは、臨床心理学的援助を要請する地域住民の相談に応じて必要な心理臨床活動を行い、併せて心理臨床に従事する専門家を育成し、もって本大学における臨床心理学的研究と教育の成果を社会に還元することを目的とする。

(事業)

第3条 心のクリニックは、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 臨床心理学的援助を必要とする一般の地域住民を対象とする各種の心理臨床活動、ただし本大学の在学生にかかわる相談は対象としない
- (2) 幼児のプレイセラピーのための「にこにこ教室」の運営
- (3) 本学大学院文学研究科心理学専攻臨床心理学コース（以下「臨床コース」という。）の学生に対する臨床心理実習、並びにこれに伴うケースカンファレンス、スーパービジョンなどの教育訓練
- (4) センターとの連携による学術的及び実践的研究、並びにその成果の発表
- (5) 「心のクリニック紀要」の発行
- (6) その他、前条の目的を達成するために必要な事業

(心理臨床技法の種類及び相談料金)

第4条 心のクリニックの心理臨床技法の種類及び相談料金については、「追手門学院大学地域支援心理研究センター附属心のクリニック内規」に定める。

(構成員)

第5条 心のクリニックは、次の構成員をもって組織する。

- (1) 室長 1名
- (2) 相談員 若干名
- (3) 非常勤相談員 若干名
- (4) 院生相談員 若干名
- (5) 事務職員 1名

2 心のクリニックは、研修相談員を置くことができる。

(室長)

第6条 室長は、心のクリニックの業務全般を統括し、併せて相談員として臨床業務に従事する。

- 2 室長は、院生相談員の臨床教育に従事し、これを統括する。
- 3 室長は、臨床コース担当の教授で、かつ財団法人日本臨床心理士資格認定協会の認定する臨床心理士の資格を有する者（以下「有資格者」という。）の中から、センター長の推薦に基づき学長が委嘱する。
- 4 室長の任期は2年とし、重任を妨げない。

(相談員)

第7条 相談員は、臨床業務に従事するとともに、心のクリニックの業務全般について室長を補佐する。

- 2 相談員は、院生相談員の臨床教育に従事する。
- 3 相談員は、臨床コース担当の専任教員で、かつ有資格者の中から、室長の推薦に基づき学長が委嘱する。ただし、有資格者と同等以上の心理臨床経験を有する者を補助者として加えることができる。
- 4 相談員の任期は2年とし、重任を妨げない。

(非常勤相談員)

第8条 非常勤相談員は、相談員とともに臨床業務を分担し、併せて院生相談員の臨床教育を補佐する。

- 2 非常勤相談員は、学外の有資格者若しくはそれと同等以上の者の中から、室長の推薦に基づき学長が雇用契約を締結する。
- 3 非常勤相談員の雇用契約は1年とし、必要に応じて毎年更新するものとする。ただし、原則として3年を超えて継続更新することはできない。

(院生相談員)

第9条 院生相談員は、室長、相談員、非常勤相談員の指導・監督のもとに臨床実習に参加し、心理臨床の技法について研鑽する。

- 2 院生相談員は、臨床コースの学生で室長が認めた者とする。
- 3 院生相談員の能力・適性について大きな問題が認められた場合は、室長は当該学生の臨床実習への参加を随時差し止めることができる。

(研修相談員)

第10条 研修相談員は、臨床コース修了者で臨床心理士の資格取得を目指す者、ないしはそれと同等以上の学力・経験をもつ学外者で、臨床研修を希望する者がいるときに置くことができる。

(事務職員)

第11条 事務職員は、心のクリニックの受付並びに事務全般を処理する。

(守秘義務)

第12条 心のクリニックの業務に関係した者は、心理臨床の対象者について知り得た個人的事項を他に漏らしてはならない。

2 前項の守秘義務は、心のクリニックの業務を離れた後も同様とする。

3 その他、倫理に関する事項については、財団法人日本臨床心理士資格認定協会の規定する「臨床心理士倫理綱領」に従うものとする。

(改廃)

第13条 この規定の改廃は、センター運営委員会の議を経て行う。

附 則

この規定は、2004年4月1日から施行する。

5. 心のクリニック紀要 執筆要項

1. 原稿の構成

1) 掲載形態 (a、b、cのいずれかでご執筆ください)

①論文

②研究ノート

③書評・内外学会動向

2) タイトル

日本語と英語

3) 執筆者名、所属名、連携機関

4) 本文・注・文献 (仕上がりはA4判)

2. 原稿の提出方法

1) 「MS-Word」のファイル (サイズはA4判) をフロッピーディスクか電子メールに添付して送る。他の形式の場合は事務局へ問い合わせのこと。

2) ハードコピーも3部提出。(サイズはA4判)

3) 原稿は完全原稿とする。(※提出された原稿がそのまま印刷される。)

3. 表記

1) 字体

【本文】日本語：MS明朝体 11ポイント

外国語：Times New Roman 11ポイント

【見出し】原則としてMS明朝体 (強調文字) 14ポイント

副題：MS明朝体 (強調文字) 12ポイント

【注・参考文献】日本語：MS明朝体 11ポイント

外国語：Times New Roman 11ポイント

2) 文中の表記

句読点は、原則として「、」「。」を使用し、新字、新カナを使用のこと。

また、ヨコ2段組みのため、句読点、カッコ、コロンなどはヨコ組の表記となる。

3) 用字用語、表記の統一

原則として、用字用語の統一は行わないので、各自で原稿中の統一をはかること。詳細については、日本心理学会「執筆・投稿の手引 (改訂版)」に基づき執筆すること。

4) 日本人以外の人名表記

人名は、原語表記とする。

5) 西暦・和暦、数詞

半角アラビア数字を使用すること。

6) 引用文献の表記方法

和書、洋書を分けずに、著者のアルファベット順に記載すること。

7) 論文中の写真・図形・表について

採用時には単独の形式で用意すること。

①写真：

デジタルカメラで撮影したものであれば、解像度350DPI以上のオリジナル写真データを標準的な画像フォーマット（JPEG）のファイルとして、またアナログ写真で撮影されたものであれば、紙焼きの形で用意のこと。

②線画（線で構成されたグラフィックス）：

作画したオリジナルのCGソフトからEPS（Encapsulated PostScript）形式に変換したファイルを用意すること。

③表組み：

スキャン画像ではなく、作表した際に使用したソフトのファイル形式で用意すること。

紀要編集要項

1. 本誌は、追手門学院大学地域支援心理研究センター附属心のクリニック（以下心のクリニック）の研究発表の場として、年1回発刊する。
2. 編集委員会は、心のクリニックの相談員によって構成される。
3. 本誌に原著論文を投稿する者は、別に定める執筆要項を守らなければならない。
 - 1) 投稿は、心のクリニック関係者（院生相談員をのぞく）に限る。ただし、依頼原稿、資料および特集についてはこの限りではない。
 - 2) 院生相談員が投稿する際には、指導教員を通して原稿を委員会に投稿し、審査の結果原稿の採否を決定する。原稿採択の場合、院生相談員が筆頭著者となり、指導教員を第2著者として明記すること。投稿にあたっては、フロッピーディスク（機種、様式、ファイル名を記す）に原稿コピー3部を添えて提出することとする。
 - 3) 論文は、未発表のものに限る（口頭発表、研究会での発表をのぞく）。
 - 4) 紀要に掲載された論文は、地域支援心理研究センターのホームページ上に掲載する。（ただし、外部からの書き込みはできない。）

追手門学院大学 地域支援心理研究センター附属

心のクリニック紀要 創刊号

発行年月	2004年12月
発行者	追手門学院大学地域支援心理研究センター附属 心のクリニック 〒567-8502 大阪府茨木市西安威2丁目1番15号 TEL 072 (643) 9439
制作	(株)紀伊國屋書店